

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 子宮頸部細胞診陽性例における扁平上皮系異型細胞と腺系異型細胞との

鑑別が困難な細胞集塊の形態学的特徴についての検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 病理部 職位・氏名 臨床検査技師・中村千秋

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院病理部では、子宮頸部細胞診標本中に存在する扁平上皮系異型細胞と腺系異型細胞との鑑別が難しい細胞の形態学的特徴を明らかにすること目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は診断精度の向上の一助となり、患者様の身体的・精神的負担の軽減に繋がる可能性があります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。対象者：2018年1月～2023年5月の間に東邦大学医療センター大橋病院婦人科の子宮頸部細胞診検査でHSIL, ASC-H, AGC, AIS, 浸潤性腺癌の判定を受け、その後手術検体(円錐切除、広範子宮頸部摘出術、子宮全摘術)の組織診で確定診断がなされた方。約80名を対象とします。細胞診、組織診共に、通常診療に用いられた既存の標本を利用します。本研究のための新たな検体採取はありません。

細胞診：病気の異常の疑いがある場所からブラシなどで細胞を採取し、顕微鏡で観察、その形態から細胞の良性、悪性、腫瘍名などを推定する検査法。

組織診：手術によって病変全体を切除し、顕微鏡で調べる検査法。多くの場合、病変の良性、悪性、腫瘍名などが確定する確定診断となります。

HSIL(High grade Squamous Intraepithelial Lesion)：高度異型扁平上皮内病変

ASC-H(Atypical Squamous Cells, cannot exclude HSIL)：HSILを除外できない異型扁平上皮

AGC(Atypical Glandular Cells)：異型腺細胞

AIS(Adenocarcinoma in situ)：上皮内腺癌

浸潤性腺癌(Adenocarcinoma)

方法：当院病理部に保管されている子宮頸部細胞診標本に対して手術検体の組織標本と照らし合わせながら細胞診標本を再評価し、腺系の異型細胞との鑑別が難しい扁平上皮系異型細胞と扁平上皮系の異型細胞との鑑別が難しい腺系異型細胞を抽出します。これら鑑別の難しい細胞と典型的な扁平上皮系異型細胞や腺系異型細胞とを比較することで鑑別の難しい細胞の形態学的特徴を明らかにします。比較する形態学的項目は、細胞の核の大きさ、形、色の濃さ、細胞の重なり、細胞密度、細胞配列です。これらについて定量的、半定量的に評価します。

【研究に用いられる試料・情報】

試料：子宮頸部細胞診標本

情報：年齢と子宮頸部細胞診標本に見られる細胞集塊の形態学的情報

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院_研究代表技師：中村千秋 役職：臨床検査技師

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 病理部

職位・氏名 臨床検査技師・中村千秋

電話 03-3468-1251 内線 3430